

英語による自己表現活動の充実を目指して ～「聞く」「話す」「読む」「書く」活動のひと工夫～

1. 設定理由

今まで使われてきた教授法にひと手間加えることで、よりコミュニカティブな、またより言語的な新しいメソッドを生み出し、学習者に有機的なコミュニケーションの方法を習得させることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

2. 研究仮説

技能を複数組み合わせた言語活動を継続的に行うことにより、実践的で言語的な英語力を習得させることができるであろう。

3. 研究内容

- (1) WARM UP 活動の工夫
- (2) リスニング活動の工夫
- (3) 音読活動の工夫
- (4) ライティング活動の工夫

4. 結論

ウォームアップから書いてまとめる活動まで一貫性を持たせることができ、学習者が安心して授業に参加できるようになった。リラックスした雰囲気 of 授業を継続することで、学習者たちの自由な発想が見られるようになり、より授業に活気が出ている。学習者主体の教授法の開発が課題である。

1. 研究テーマ設定の理由

「知識基盤社会」、「グローバル化の進展」などという言葉を見聞きするようになって数年たち、子どもたちに求められる知識のあり方や思考する力、また生き方そのものの変化が要求されている。同時にわれわれ教育に携わる者に求められることもラディカルに変化しており、どのように対応していくべきか試行錯誤の毎日である。

平成 25 年末に文部科学省から公表された「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」には「身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力の育成」、「目標言語を用いた英語授業」が明記された。これは「英語」を「教科」として教授するだけではなく、プラクティカルな「言語」として学習者に体験的に習得させることを含意している。また、学習指導要領に基づく取り組みの推進の大きなひとつが「言語活動の充実」である。これは国語科だけにとどまらず、各教科で知的活動（論理や思考）、コミュニケーション、感性・情緒の基盤といった言語の役割を踏まえて、活動を充実させる必要性を強く謳っているものである。当然言語の教科となる外国語教育において、「言語活動・自己表現活動の充実」は強く望まれており、工夫が要求されているところである。

しかしそれはこれまで我々が行ってきた教授法を大きく改善させなければならない、ということではない。今まで積み重ねてきた教授法で成果を上げることができたものは山ほどある。そういった教授法にひと手間加えることで、よりコミュニケーション、またより言語的な新しいメソッドを生み出し、学習者に有機的なコミュニケーションの方法を習得させることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

2. 研究のねらい

「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能を向上させる活動を見直し、組み合わせたりすることにより、新しい言語活動を生み出すことと、学習者の 4 技能の向上をねらいとする。

3. 研究仮説

技能を複数組み合わせた言語活動を継続的に行うことにより、実践的で言語的な英語力を習得させることができるであろう。

4. 研究内容

(1) WARM UP 活動の工夫

外国語に触れるとき、我々はどうしてもストレスを感じる。それは我々が外国語を「未知のもの」「慣れ親しんでいないもの」と認識しているという理由だけでなく、我々が「言語使用」を人間の基本的な営みであると考えているからである。その現象として我々は母語である日本語の使用時、エラーに自ら気づいたり、相手から指摘されたりすると非常に恥ずかしい思いをしたり、腹立たしい気持ちになったりすることがあげられる。外国語を使用する際にはなおさらである。だからこそ学習者を外国語学習の場に飛び込ませる際には、いかにストレスを軽減できるか、緊張感を緩和できるかが大切となるのは自明の理である。よって WARM UP 活動は必要不可欠であり、毎時間行うものであるから工夫の成果が出やすい活動だと言えるだろう。

ア LINE GAMES のひと工夫（即興性と創作性）

LINE GAMES はクイズ的、遊び的な要素が強く、授業に入る際には絶好な WARM UP 活動であると言えるだろう。反面学びの早い生徒や積極的な生徒だけが参加する傾向に陥り易く、発言する者が毎回決まってきてしまうことが短所である。T T や少人数学習の形態で、発言せざるを得ない状況を作り出して行った。また質疑応答が一方的・単発的にならないように工夫している。

（ア） Questions and Answers

非常に単純明快であることから、既習事項の定着を目的として行われることが多いだろう。Yes / No questions と Wh-questions のコンビネーションで 4 文会話がナチュラルに行えるようにしている。

Ex.1) T: Do you like sports?

S: Yes, I do.

T: What sports do you play?

S: I play table tennis.

Ex.2) T: Do you like sports?

S: No, I don't.

T: What about music? Do you like it?

S: Yes.

T: How many CDs do you have?

S: I have about ten.

（イ） Answers and Questions

まず回答を提示し、その答えを引き出す文を構築する活動である。回答を提示する側（たとえば教師）の特性や嗜好を推理する要素が加わり、より面白さが増す活動になる。

Ex1) T: Yes, I do.

S: Do you like music?

T: Yes, I do. BINGO! / No, I don't. Sorry.

Ex2) T: I have about 300.

S1: How many books do you have?

T: I have about 100. Sorry.

S2: How many CDs do you have?

T: I have about 300. BINGO!

答えを導くための英文が複数存在することもある。

Ex.3) T: I usually clean my room on Sundays.

S: When do you clean your room?

S: What do you usually do on Sundays?

T: Both are correct!

(ウ) Plus One!

Questions and Answers で 2 文会話をした後に教師が “Plus One!” と言い、もう一文要求する活動である。Plus One の部分は話の内容さえ外れなければ自由に創作可能であり、より知的な活動となる。

Ex.1) T: Can you ski?

S: No, I can't.

T: Plus One!

S: But I can skate.

Ex.2) T: What will you do next weekend?

S: I will go shopping.

T: Plus One!

S: I will buy some flowers for my mother.

(エ) I do this but I don't do that.

テーマを与え、自分のことについて両面から文を構築する活動である。やや難しさはあるが、即興性をトレーニングするには効果が高い。

Ex.1) T: Sports!

S1: I play soccer but I don't play baseball.

S2: I can ski but I can't skate.

S3: I like tennis but I don't play it.

Ex.2) T: Places!

S1: I go to Tokyo Disney Land but I don't go to Universal Studio Japan.

S2: I want to go to Korea but I don't like spicy food.

イ Interview 活動のひと工夫 (話す+書く→レポートする)

Find someone who～を行った後、グループを作る。その中でレポーターを決めてグループトークで話されたことをまとめて全体に発表する活動である。レポーターは毎時間換え、全員が経験できるようにする。グループで話されたことを書く際には Takashi,

shopping, flowers 等とメモをとる程度にし、「読む」活動とならないようにする。

Ex.)



(2) リスニング活動の工夫 (3 Round Listening の活用)

リスニングは、第2言語を習得する上で必要不可欠な技能である。文字を介しない技能であるため、文字を学習していない入門期の指導に取り入れることができる易しさがあると同時に、文字がないゆえの難しさがある技能でもある。リスニングはインプット技能という点ではリーディングと同じであるが、一過性のために聞き逃した部分を聞き返すことができない点が、何度も読み直しができるリーディングと大きく異なる。また、音声を扱うという技能においても、自らのペースでアウトプットできるスピーキングとは異なり、リスニングは相手依存の技能であるため、スピードや内容を自ら統制することが困難である。このようにリスニングは認知的負荷の高い技能であると言える。

そこで千葉大学教授、西垣知佳子氏のメソッドである“3 Round Listening”をベースにして活動を工夫してみた。“3 Round Listening”の大きな目的は「多聴」である。タスクを段階的に複数与えることで、同じ英文を何度も飽きることなく聞くことができるのが大きな利点である。また、タスクをこなしていくうちに内容が深く理解できるようになるので学習者の達成感も高い。教科書本文の概略を理解させるために活動を簡略化して行っている。

ア Listen and Catch (聞く＋書く)

教科書の本文の音声聞いて、聞き取れた単語、フレーズまたは文を書きとる活動である。できるだけたくさん書くことが要求されるので、学習者がアルファベットに慣れていない時や、綴りがわからなかった時はカタカナで書いても良いこととする（この時新出単語は導入されていない）。2回聞いたのち、全体で聞き取れたことをシェアする。この活動の良い点は学習者が自分の学びのスピードに合わせて難易度を自分で設定できることである。学びがゆっくりな生徒は単語単位で書き取ればいいし、速い生徒は文単位で書きとったり、新出語句の綴りを想像しながら書いたりすることもトライできる。シェアするときには口頭で発表されたものを教師が黒板に書いていくので、綴りのエラーはその都度自分で直していくことができる。また、自然なインフォメーションギャップが生まれるので新たな発見があり、生徒全員が手をあげられる活発な活動である。

イ Comprehension Questions (聞く＋掴む)

内容を聞き取る活動である。たいていの場合は日本語で質問がなされ、日本語で答える形となっている。概要がわかればいいのか、細かな部分は問わず、話の根本を聞き取れるように質問を工夫するようにしている。

ウ Dictation (聞く＋書く)

聞き取りの活動において一番緊張感が高まる活動である。Dictationで求められるのは「正確性」なので、十分に練習が済んでいる、「新出文型」が使われている文を出題するようにしている。

エ 人差し指リーディング

聞き取りの後に行われる音読練習に備えて和訳を先渡しする。1文ずつ番号を付けて提示し、英文と日本語がリンクしやすくなるようにしている。

ウまでで合計6回同じ文章を聞いているので、概要は十分に理解されており、生徒にとっては平易なタスクである。

(3) 音読活動の工夫 (多読、速読)

外国語学習で、最も効果的だと思われるのが「音読」である。音読は自分のペースで進めることができ、インプットトレーニングとしては聞き取りの活動よりも平易である。また発音、イントネーションのトレーニングだけにとどまらず、センスグループを経験的に理解することができたり、文構造を帰納的に染み込ませたり、リスニング能力を向上させることもできるなど、非常にリワードが大きい。自学として家庭でもできるので、正しいやり方をインストラクションするようにしている。

ただし、音読による学習効果が発揮されるためには、数回のトライでは足りない。私の教師経験から提唱する回数は「1ページ最低20回」である。ただ連続して行う必要はな

いので、授業の中で10～13回くらいは行い、残りの回数は自学として家庭で行うこととしている。10回以上の回数を授業で行うには速読させることが必要となる。速読を行うことで英語を言い慣れる効果があるのはもちろんだが、文章読解能力やリスニング能力をアップさせる効果もある。速く読むためには必然的に文の広い範囲を目から入れ、頭で処理しなければならない。したがって速読は言葉の処理能力を向上させるための一手になり得る。また速い速度に慣れていれば、その速度以下のスピードで読まれたり言われたりした英語を理解するのは易しくなる（インターチェンジ効果）。このようなことを生徒に実感させながら活動させるようにしている。

ア 基本の音読活動

音読を正しく行おうとするとき、満たしていなければならない前提がある。

- ①内容が理解されている。
- ②発音が正しくできている。
- ③文構造が理解されている。

以上の3つを満足させるための音読活動を必ず行う。

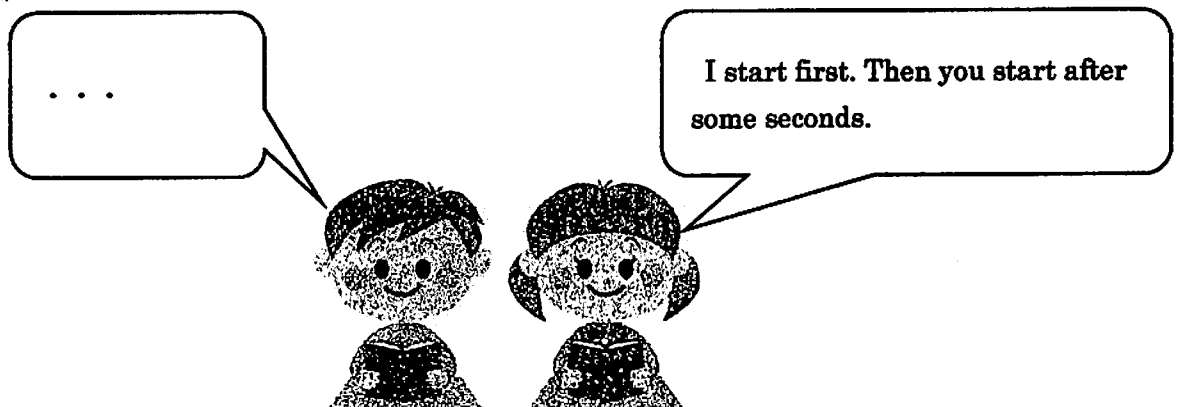
- ①和訳先渡し人差し指リーディング
- ②ワードリーディング
- ③スラッシュリーディング

学習者の反応を見ながら数回ずつ行うこともある。

イ 追っかけリーディング

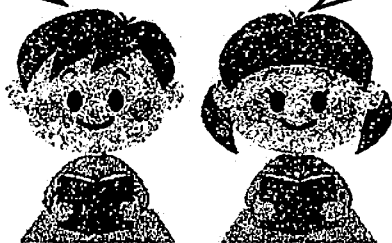
ペアで行うリーディング活動である。同じ文章を数回読ませるには飽きの来ないようにしなければならない。また速読させるために競争の要素を加えてみた。

Ex.)



I start first. Then you start after some seconds.

Can you catch up with me and possibly overtake?



追いかける側も、追いかける側も「追いつく」「逃げ切る」という目標を持てるので、同時に読み始めるよりも活動に夢中になりやすい。先攻と後攻2回ずつで、計4ラウンド行う。終わるころには差がほとんどなくなっていることが多い。

人差し指リーディングから追っかけリーディングまでの活動時間は10～13分程度で、その間12回音読させることができる。この活動の後にオーバーラッピングやシャドウイング、たけのこシャウトなどの活動を加えると15回以上は読む機会を与えられ、効果が出る音読の回数までほぼ近づけた形となる。

(4) ライティング活動の工夫（言う＋書く）

一連の活動のまとめとして、十分に読み込んだ教科書の本文をノートにコピーする活動をさせる。教科書を閉じさせ、人差し指リーディングを行うときに提示した一文ごとの日本語訳を見ながら英文を書かせる。書く前には一文ずつ必ず声に出して言わせるようにしている。そうすることで音読練習の成果が実感できる。

すべてコピーし終えたら、綴りを単語単位でチェックさせる。この時ピリオドやコンマなどの記号も正しい位置につけられているかどうか添削させる。コンマを付ける位置は説明ではなかなか難しいので、教科書のコピーを通じて体験的に学習させたい。



You've got to say each sentence before writing. Check all the words, commas, periods and other marks.

5. 研究のまとめ

コミュニケーションを意識した活動を用意することで、ウォームアップから書いてまとめる活動まで一貫性を持たせることができ、学習者が安心して授業に参加できるようになった。リラックスした雰囲気での授業を継続することで、学習者たちの自由な発想が見られるようになり、より授業に活気が出ている。また、技能を組み合わせた活動を行うことにより、4技能のトレーニングをバランスよく取り入れることができ、学力の向上につながりつつある。

課題としては、教師主導ではない活動の開発がある。今回提案したメソッドは教師主導のインストラクションであり、本当の意味で学習者の発想や考えを100%満たすものではない。これから生徒に望まれる力は「自ら課題を見つけて解決していくこと」である。もっと自由度の高い、学習者の興味関心を引き出し、活用できるような教授方法の開発を目指して、日々の教育活動に取り組んでいこうと思う。